



中3

2026 シラバス





# 目次

## ページ

3 英語（英会話を含む）

4 国語

5 社会（公民・歴史）

6 数学

7 理科(物理&化学)

8 理科(生物)

9 理科(地学)

10 音楽

11 美術

12 保健体育

13 技術・家庭（家庭分野）

14 技術・家庭（技術分野）

15 宗教

年間授業計画表

|      |            |       |      |
|------|------------|-------|------|
| 履修学年 | 教科         | 授業形態  | 週時間数 |
| 中学3年 | 英語(英会話を含む) | 一斉・分割 | 6時間  |

|  |  |
|--|--|
| 教科書<br>NEW CROWN 3(三省堂)  | 副読本<br>Key ワーク 英語3年(教育開発出版)<br>語順ドリル③(正進社)<br>キクジユク(アルク)<br>Hyper Listening(桐原書店)<br>Active Practical Reading(第一学習社) |
| <p>目標・ねらい</p> <p>1 英語の学習を通じて、様々な問題について興味・関心を深め、自らの考え、意見を持つ。</p> <p>2 自己表現のためのツール(文法、語彙、論理展開)を身に付ける。</p> <p>3 自己表現の経験を積むことによって、自己表現力を身に付ける。</p>   |  |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 学習方法</p> <p>(1) 予習<br/>新出単語の品詞、意味を調べ、例文を書く。</p> <p>(2) 授業<br/>ア 帯活動(Small Talk、速読、瞬間英作文等)<br/>イ 新出語句の発音と意味確認<br/>ウ オーラルイントロダクションやリスニングによる本文の概要把握<br/>エ 本文の内容理解と音読<br/>オ 新出文法のルールを理解と活用練習<br/>カ レッソンのトピック、新出文法を使った自己表現と発表<br/>キ 文法確認テスト、まとめテスト、パフォーマンステスト、キクジユクテスト等<br/>ク 学習テスト</p> <p>(3) 復習<br/>ア 音読(学習アプリabceed)<br/>イ 家庭学習プリント<br/>ウ Keyワーク、語順ドリル、自己表現ノート<br/>エ 文法確認テストや単語テスト等に向けての準備</p> <p>2 長期休業の課題</p> <p>(1) 与えられたトピックについて、まとまった英文を書く。</p> <p>(2) 夏期・冬期・春期テキスト(文法練習問題・長文読解問題)</p> <p>(3) キクジユクの例文暗記 → 休み明けに確認テストを実施</p> |  |

|               |    |                               |
|---------------|----|-------------------------------|
| 観点            | 割合 | 授業時における項目                     |
| 知識・技能         | 40 | 単語テスト・キクジユク・まとめテスト・Final Task |
| 思考・判断・表現      | 40 | 英会話・まとめテスト・Final Task         |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 活動への意欲・提出物・学習への振り返り           |

|   |   |  |
|---|---|--|
| 単元  | 目標  |  |
| <p>Lesson 1 Join Us<br/>(1) 現在完了形(経験・完了・継続)</p> <p>【Unit 1 The Power of Music】<br/>Lesson 2 The Power of Music<br/>(1) 現在完了進行形 肯定文<br/>(2) " 疑問文・応答文・否定文<br/>(3) &lt;help + A + 動詞の原形&gt;<br/>(4) &lt;It is ...(for A) to ~.&gt;</p> <p>Take Action! Listen② 遊園地の園内放送<br/>Take Action! Talk② 話し合い</p> | <p>Lesson 1 Join Us<br/>海外の中学生に紹介するために、最近夢中になっていることや、打ち込んでいることについて、詳しい説明をつけ加えて、まとまりのある内容を話すことができる。</p> <p>【Unit 1】<br/>Lesson 2 The Power of Music<br/>(1) 音楽の持つ力について考える。<br/>(2) 現在完了進行形を理解し、使うことができる。<br/>(3) 園内放送を聞き、必要とする情報を聞き取る。<br/>(4) 与えられたテーマについて、事実や自分の考えを整理し、「根拠を示して説明する」「賛成する」「反対する」表現などを用いて自分の考えを伝え合う。<br/>(5) 歌(歌詞)のListening、Readingを行い、その曲が人の気持ちをどのように動かすのかを考える。<br/>評価基準【A, B】</p>   |  |
| 前期  | <p>【Unit 2 The Way to Peace<br/>~What Can We Do for Peace?】<br/>Lesson 3 Cranes for Peace<br/>(1) 受け身<br/>(2) 受け身(by...の文)<br/>Project① 旅行プランの提案<br/>Reading Lesson① What Makes Music?</p> <p>Lesson 4 Bollywood Movies<br/>(1) 後置修飾(動詞のing形)<br/>(2) 後置修飾(過去分詞)<br/>Take Action! Listen③ バスのアナウンス<br/>Take Action! Talk③ 解決策の提案<br/>GTEC<br/>学習テスト</p>   | <p>【Unit 2】<br/>(1) 原爆にまつわる事実を知り、平和について考える。<br/>(2) 受け身を用いて人や物について詳しく説明できる。<br/>(3) 物語の要約文を書くことができる。<br/>(4) 平和のためにできることに対する意見を述べる。<br/>(5) スピーチ内容をエッセイライティングする。<br/>評価基準【C, D】</p> <p>Lesson 4 Bollywood Movies<br/>意見を投稿するために、与えられたテーマについて書かれた投稿を読み、読んだことに基づき引用するなどして、事実や自分の考えなどを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。</p>   |
| 後期  | <p>【Unit 3 Translating Culture】<br/>Lesson 5 Translating Culture<br/>(1) 関係代名詞 主格 (which, that)<br/>(2) 関係代名詞 主格 (who, that)<br/>Take Action! Listen④ ラジオニュース<br/>Take Action! Talk④ 話し合い<br/>【Unit 4 What is "Fair"?】<br/>Lesson 6 Being Fair<br/>関係代名詞 目的格 (that / which) / 後置修飾<br/>Project① ラジオの30秒CM<br/>Reading Lesson①</p> <p>Lesson 7 Design for Change<br/>(1) 仮定法過去(if)<br/>(2) 仮定法過去(I wish)<br/>Take Action! Listen⑤ 国立公園の注意事項<br/>Take Action! Read① スキーツアー<br/>Reading Lesson② I Have a Dream<br/>学習テスト</p> | <p>【Unit 3】<br/>Lesson 5 Translating Culture<br/>(1) 世界に広がった漫画とアニメについて知る。<br/>(2) 関係代名詞を理解し、使うことができる。<br/>評価基準【C, D】</p> <p>【Unit 4】<br/>Lesson 6 Being Fair<br/>(1) アメリカの公民権運動について知り人権の大切さを考える。<br/>(2) 関係代名詞を理解し、使うことができる。<br/>(3) 依頼、申し出、承諾の表現を使って買い物ができる。<br/>評価基準【A, B】</p> <p>Lesson 7 Design for Change<br/>(1) 自分の将来像や将来の夢について考える。<br/>(2) 仮定法過去の用法を理解し、使うことができる。<br/>(3) スピーチを聞いて、話し手が伝えたいことを聞き取る。<br/>(4) 議論に参加したり、始めたりする表現を身に着け、意見交換を行う。<br/>(5) 色々な動作動詞を学習し仮定法の表現を身に着ける。</p> |
|   | <p>【Unit 5 (The Meaning of ) Learning Foreign Languages】<br/>Lesson 8 For Our Future<br/>(1) 間接疑問(SVO)<br/>(2) 間接疑問(SVOO)<br/>Take Action Read② 市民ホールのイベント<br/>Project ③ 10年後の自分へのメッセージ<br/>Reading Lesson③ Learning from Nature<br/>GTEC<br/>学習テスト</p>   | <p>【Unit 5】<br/>(1) 英語と自分との関わりについて考える。<br/>(2) 間接疑問文を理解し、使うことができる。<br/>(3) 依頼する表現を使い相手にしてほしいことを伝える。<br/>(4) 空き地について、地域の人の意見を読みどのように活用すればよいか話し合う。<br/>(5) 物語文を読み、登場人物の心情を把握する。<br/>(6) 説明文を読み、自然界と科学技術とのつながりを読み取る。<br/>評価基準【C, D】</p>   |

|      |    |      |      |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 国語 | 一斉   | 4時間  |

|  |   |
|--|---|
| 教科書<br>中学国語3年（教育出版）<br>中学書写3（教育出版）   | 副読本<br>よくわかる中学国文法（吉野教育図書）<br>書いて覚える！例文漢字 教3（浜島書店） |
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語を、「考える」「創造する」「振り返る」「学習する」「自己表現する」「分析する」「社会とやりとりする」ための手段として利用できるようにする。</li> <li>・さまざまな場面で、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「見ること」「発表すること」に関わるスキルを身につける。</li> <li>・文学および文学以外のテキストを、批判的、かつ創造的、かつ独創的に学習し分析することを探究する。</li> <li>・いろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。</li> <li>・文学および文学以外のテキストを通して、自分の国や学校所在地の文化、その他の文化を探究し、分析する。</li> <li>・多様なメディアや伝達手段を通して言語を探究する。</li> <li>・生涯にわたる読書への関心を育む。</li> <li>・さまざまな場面において、言語的で文学的な概念とスキルを応用できるようにする。</li> </ul> <p>注意事項（学習方法・長期休業の課題など）</p> <p>○学習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習<br/>事前に教科書などのテキストを提示された場合は、それを読み、分からない語句などは意味を辞書で調べておく。事前にその他の課題を出された場合も、確実にその課題をこなしておく。</li> <li>・授業<br/>個人作業→協働作業→個人作業の繰り返しの中で、仲間と一緒に考えながら自己の考えを深め、一つの事柄を探究していくことの楽しさや喜びを実感できるようにする。各Unitにおける提出物（特に総括的評価課題）は必ず提出する。</li> <li>・復習<br/>自分の提出・提示した課題と評価規準を見比べ、課題への取り組み方として足りなかった部分、今後必要になってくるであろう部分を認識する。評価に納得のいかない部分があった場合は、必要に応じて教員と面談等を行い、納得した上で次の課題に取り組む。</li> </ul> <p>○学習テスト</p> <p>計画的に学習計画を立てる習慣づけのため、およびそれまでのUnit等において得た知識がしっかり定着しているかを測るために、定期的に「学習テスト」を実施する予定。</p> <p>○長期休業の課題</p> <p>長期休暇には、作文や読書感想文などの文章を書く課題を課す。<br/>俳句や短歌作り、その他創作、課題作文等、外部コンクールにも応募する。</p> <p>○小テスト 漢字テスト・語彙テストなどを定期的実施する。</p> <p>○書写 毛筆・硬筆併せて、年間10時間程度行う。</p> <p>※学年の状況に応じてUnitが前後することがある。</p> |   |

|               |    |   |
|---------------|----|---|
| 観点            | 割合 | 授業時における項目   |
| 知識・技能         | 20 | 各課題における言語使用、国文法、漢字テスト、書写                                |
| 思考・判断・表現      | 60 | テキストの分析・文章読解／口頭での発表・他者の発表の聞き方／長期休暇中の課題作文・論文や作文など文書による課題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 課題の提出状況・課題への取り組み態度                                      |

年間授業計画表

|    |                                    |  |
|----|------------------------------------|--|
|    | 単元                                 | 目標   |
| 前期 | 1 オリエンテーション                        | 1 年間を通じての授業の方針と、ねらい・目標を理解する  |
|    | 2 メディア分析（メディアリテラシーの習得）（UNIT1）      | 2 メディアリテラシーの習得を目指し、自身の意見に対しても問いを立てられるようになる。  |
|    | 3 「理解」の側面の探究（論説文の読解・伝え方の探究）（UNIT2） | 3-1 論理的に述べられた文を読み、知識を広げると共に、論理的文章の構成を学ぶ。<br>3-2 「理解」という言葉を視座に、「伝える」と「伝わること」の違いなどを生徒間のコミュニケーションの実践を通して探究する。 |
|    | 4 文章読解演習（外部テスト対策）                  |  |
|    | 5 漢字学習                             | 4 初見の文章の論理的構造を把握する力をつける。   |
|    | 6 口語文法                             | 5 基礎学力と日々の自主学習のリズムを定着させる。  |
|    | 7 言語技術                             | 6 口語文法の知識の定着をはかる。  |
|    | 8 書写                               | 7 論理的な言語の運用ができるようになる。<br>8 行書の運筆について学び、作品を完成させる。   |
| 後期 | 1 韻文の効果の探究（韻文・古文）（UNIT3）           | 1 古文の紀行文を通して、古文知識の定着をはかる。また、韻文における景色の描写が受け手の印象にどのように影響するかを検討する。  |
|    | 2 社会的文学作品の探究（鲁迅「故郷」）（UNIT4）        | 2 作品の主題を通し、社会的背景と人間の生き方について考える。  |
|    | 3 文章読解演習                           |  |
|    | 4 漢字学習                             | 3 初見の文章の論理的構造を把握する力をつける。   |
|    | 5 口語文法                             | 4 基礎学力と日々の自主学習のリズムを定着させる。  |
|    | 6 言語技術                             | 5 口語文法の知識の定着をはかる。  |
|    | 7 書写                               | 6 論理的な言語の運用ができるようになる。<br>7 行書の運筆について学び、作品を完成させる。   |

年間授業計画表

|    | 単元   | 目標  |
|----|--|---|
| 前期 | ユニット1<br>3章 立憲国家への道（歴史）<br>4章 日清・日戦争とアジア（歴史）<br><br>★総括的評価課題・単元テスト（5月）                     | 日本では、どのようにして基本的人権という考え方が生まれていったのかについて、国内の人々の動きと日本を取り巻く欧米の状況をもとに考察する。<br><br>【A】【C】          |
|    | ユニット2<br>1. 憲法が保障する基本的人権（公民）<br>2. 財政の役割（公民）<br>3. 暮らしを支える社会保障（公民）<br><br>★探究課題・単元テスト（7月）  | 基本的人権は、現代社会の中でどのように位置づけられているか、また基本的人権が尊重されるためには財政や社会保障などのしくみが必要であることを考察する。<br><br>【A】【B】【D】 |
| 後期 | ユニット3<br>1. 近代日本の産業と文化（歴史）<br>2. 私たちの暮らしと民主政治（公民）<br><br>★単元テスト（10月）                       | 民主政治を実現するために、どのようにすればすべての人が権利責任を果たし、自らの考えを政治に反映させることができるか考察する。<br><br>【A】                   |
|    | ユニッット4<br>1. 第一次世界大戦と日本（歴史）<br>2. 国際協調の崩壊（歴史）<br>3. 私たちの暮らしと社会（公民）<br><br>★探究課題・単元テスト（12月） | 資本主義経済の発展によって、経済的によどのような点が豊かになったのか、逆になぜ戦争を引き起こす原因となった帝国主義が誕生したのかを考察する。<br><br>【A】【B】【C】     |
|    | ユニット5<br>1. 第二次世界大戦と日本（歴史）<br>2. 国際社会を生きる私たち（公民）<br><br>★探究課題・単元テスト（2月）                    | 自国第一主義が、なぜ第二次世界大戦を引き起こすことになったのか、そして戦争はなぜ国内の人権侵害にとどまらず、他国の民族弾圧という状況を起こすのか考察する。<br><br>【A】【D】 |

| 履修学年 | 教科        | 授業形態 | 週時間数 |
|------|-----------|------|------|
| 中学3年 | 社会(公民・歴史) | 一斉   | 4時間  |

|  |                                    |
|--|------------------------------------|
| 教科書<br>中学生の公民 よりよい社会を目指して(帝国書院)<br>中学歴史 日本と世界(山川出版社)   | 副読本<br>ビジュアル公民(とうほう) 学び考える歴史(浜島書店) |
| 目標・ねらい<br>・人間と環境に見られる共通点や多様性を認識すること<br>・個人、社会、環境の相互作用や相互依存性を理解すること<br>・環境の体系と人間の体系がどのように作用し進化していくかを理解すること<br>・人間のコミュニティーと自然環境の健やかさについて、問題点を特定し啓発すること<br>・地域およびグローバルなコミュニティーの責任ある市民として行動すること<br>・探究のスキルを養い、個人と社会とそれらが生きる環境との間の関係性を概念的に理解すること  |                                    |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など)<br><br>1 日常の学習<br>(1)1つのユニットの中で、歴史的分野と公民的分野の学びを並行しておこなう。<br>(2)A4サイズのファイルを準備し、配布されたプリント類をポートフォリオとしてまとめる。<br>(3)ユニットによって座学やグループワーク、個人ワークなどを組み合わせて行う。<br>(4)ユニット内容に合わせて家庭学習を進め、知識定着をはかること。<br>(5)学習習慣定着のため、課題提出は必ず行うこと。<br>(6)学習テスト(年3回)に際しては、先の見通しを立てて計画的に準備すること。<br><br>2 長期休業の学習<br>(1)まとまった時間を使って探究課題に取り組む。<br>(2)上記内容を学園祭にて展示する。 |                                    |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目                 |
|---------------|----|---------------------------|
| 知識・技能         | 40 | 小テスト・単元テスト(学習テストを含む)・探究課題 |
| 思考・判断・表現      | 40 | 小テスト・単元テスト(学習テストを含む)・探究課題 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 小テスト・単元テスト(学習テストを含む)・探究課題 |

|      |    |      |      |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 数学 | 分割   | 4時間  |

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 教科書<br>未来へひろがる数学 3 (啓林館)  | 副読本<br>数学の学習ノート 3年 (正進社) |
| <b>目標・ねらい</b><br>・式の展開を学び、その逆の因数分解ができ、2次方程式が解ける。<br>・頂点が原点となる2次関数のグラフが描ける。<br>・相似や三平方の定理を活用して、測量ができる。   |                          |
| <b>注意事項 (学習方法・長期休業の課題など)</b><br>○ユニットテストについて<br>(1) 授業内容を中心に出题する。<br>(2) ユニットテスト当日に、問題集を提出すること。<br>○その他のテストについて<br>(1) 再テスト : ユニットテストの再テスト及び補習<br>(2) MN テスト : 日々の授業内容を確認する小テスト<br>(3) DN テスト : 学習済みの内容を自宅で振り返る宿題<br>(4) 学習テスト : ユニットテスト・MNテスト・DNテストの類題を出题するまとめテスト<br>○日々の学習について<br>(1) 予習として、教科書の例題を読むと良い。ファイルを用いてプリント類を整理する。<br>(2) 復習として、問題集を解いて答え合わせと間違い直しをする。<br>(3) 入学前と長期休暇の宿題はワークやプリントが配布される。<br>(4) 各教室に置いてある数学検定の問題集を自由に活用する。<br>(5) 希望者に問題集「STEP演習(数研出版)」を販売する。各自のペースで取り組むこと。<br>(6) 各自で「振り返りノート」を準備し、学カテスト後に提出する。 |                          |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目          |
|---------------|----|--------------------|
| 知識・技能         | 20 | MNテスト・学習テスト・学カテスト  |
| 思考・判断・表現      | 60 | ユニットテスト・探究課題(レポート) |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 提出物・DNテスト          |

年間授業計画表

|    | 単元  | 目標   |
|----|---|--|
| 前期 | <b>ユニット1</b><br>1章 式の展開と因数分解<br>式の展開と因数分解<br>式の計算の利用<br>ユニットテスト<br><br>2章 平方根<br>平方根<br>根号をふくむ式の計算<br>平方根の利用<br>ユニットテスト | ・展開と因数分解の関係を把握する。<br>・素因数分解ができる。<br><b>【A】</b><br><br>・有理数と無理数の違いを理解する。<br>・平方根の大小関係を理解する。<br>・平方根の加減乗除ができる。<br><b>【A】</b> |
|    | <b>ユニット2</b><br>3章 二次方程式<br>二次方程式<br>二次方程式の利用<br>ユニットテスト 学習テスト  | ・2次方程式を解く。<br>・解の公式によって2次方程式を解く。<br><b>【B・C】</b>   |
|    | <b>ユニット3</b><br>4章 関数 $y=ax^2$<br>関数 $y=ax^2$ とグラフ<br>関数 $y=ax^2$ の値の変化<br>いろいろな事象と関数の利用<br>ユニットテスト レポート                | ・2乗に比例する関数を、式や表やグラフに表す。<br>・変域を理解する。<br>・文章題を、2乗に比例する関数を利用して解く。<br><b>【A・D】</b>  |
| 後期 | <b>ユニット4</b><br>5章 図形と相似<br>図形と相似<br>平行線と線分の比<br>相似な図形の計量<br>ユニットテスト  | ・三角形の相似条件を理解し、活用できる。<br>・相似な図形の線分比や面積比などを理解する。<br><b>【B・C】</b>   |
|    | <b>6章 円の性質</b><br>円周角と中心角<br>円の性質の利用<br>ユニットテスト レポート  | ・円周角の定理を理解し、活用できる。<br><b>【B・C】</b>   |
|    | <b>ユニット5</b><br>7章 三平方の定理<br>直角三角形の3辺の関係<br>三平方の定理の利用<br>ユニットテスト レポート<br>学習テスト  | ・三平方の定理を理解し、活用できる。<br><b>【D】</b>   |

|      |           |      |      |
|------|-----------|------|------|
| 履修学年 | 教科        | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 理科(物理&化学) | 一斉   | 2時間  |

| 教科書<br>未来へひろがるサイエンス 3 (啓林館)  | 副読本<br>理科の自主学習3年 (新学社) |                       |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
|--|------------------------|-----------------------|----|-----------|-------|----|--------------|----------|----|-----------------------|---------------|----|----------|
| <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学とその意味するものを理解し正しく認識すること</li> <li>科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと</li> <li>疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと</li> <li>調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと</li> <li>効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること</li> <li>実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること</li> <li>生物環境と非生物環境に対して敏感になること</li> <li>学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること</li> </ul> |                        |                       |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
| <p>注意事項（学習方法・長期休業の課題など）</p> <p>1 学習方法<br/>(1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。<br/>(2)復習を重視し、小單元ごとに問題演習を行う。<br/>(3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。</p> <p>2 家庭学習<br/>(1)学校からの課題を行う。<br/>(2)テストに向けた学習計画を立て実行する。(ユニットテスト、学習テストを含む)<br/>(3)夏休みには、課題等を行う。</p> <p>3 授業<br/>実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。<br/>状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。</p>  |                        |                       |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
| <p>評価について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観点</th> <th>割合</th> <th>授業時における項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能</td> <td>40</td> <td>テストや課題、実験の技能</td> </tr> <tr> <td>思考・判断・表現</td> <td>30</td> <td>テスト、授業プリントやレポートなどの提出物</td> </tr> <tr> <td>主体的に学習に取り組む態度</td> <td>30</td> <td>授業態度、提出物</td> </tr> </tbody> </table>                                    |                        | 観点                    | 割合 | 授業時における項目 | 知識・技能 | 40 | テストや課題、実験の技能 | 思考・判断・表現 | 30 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 | 主体的に学習に取り組む態度 | 30 | 授業態度、提出物 |
| 観点   | 割合                     | 授業時における項目             |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
| 知識・技能  | 40                     | テストや課題、実験の技能          |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
| 思考・判断・表現   | 30                     | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |
| 主体的に学習に取り組む態度  | 30                     | 授業態度、提出物              |    |           |       |    |              |          |    |                       |               |    |          |

年間授業計画表

|    | 単元   | 目標   |
|----|--|--|
| 前期 | <p>MYP UNIT1<br/>エネルギー編 運動とエネルギー<br/>1章 力の合成と分解<br/>2章 物体の運動<br/>3章 仕事とエネルギー</p> <p>ユニットまとめてスト</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>力が加わっている条件を理解する</li> <li>水圧と浮力について理解する</li> <li>日常生活との関連をはかりながら、力のつり合いと合成・分解、物体にはたらく力と運動の間の規則性について理解する。</li> <li>等速直線運動と等加速度運動がおこる条件を理解する。</li> <li>電車の出発、停止やだるま落としを例に、慣性を理解する。</li> <li>理科における仕事の定義を理解し、仕事の原理を見いだす。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見いだす。</li> <li>摩擦力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解する。</li> </ul> <p>MYP：ジェットコースターの仕組みを探る</p> |
|    | <p>MYP UNIT4<br/>4章 多様なエネルギーとその移り変わり<br/>5章 エネルギー資源とその利用</p>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づき、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解し、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解する。</li> </ul> <p>MYP：身近なものからエネルギーを生み出すには？</p>  |
| 後期 | <p>MYP UNIT5<br/>物質編 化学変化とイオン<br/>1章 水溶液とイオン</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>水溶液の電気伝導性の実験から、水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いだす。</li> <li>電解質水溶液の電気分解の実験から、電極に物質が生じることよりイオンの存在を見いだす。</li> <li>イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解する。</li> </ul>   |
|    | <p>2章 電池とイオン</p> <p>ユニットまとめてテスト①</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>実験により金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだし、イオンのモデルと関連付けて理解する。</li> <li>電池を製作し、電池では化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づく。</li> <li>電池の原理を、イオンのモデルを用いて説明できる。</li> <li>いろいろな電池に関心をもち、燃料電池の原理も理解する。</li> </ul> <p>MYP：ダニエル電池の電圧を高くせよ。</p>   |
|    | <p>3章 酸・アルカリと塩</p> <p>ユニットまとめてテスト②</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>酸やアルカリの水溶液の実験により、酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いだす。</li> <li>酸とアルカリの電離のようすをイオンのモデルを使って説明できる。</li> <li>中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを見いだし、中和反応をイオンのモデルを使って説明できる。</li> </ul> <p>MYP：自作のpH指示薬で水溶液のpHを推定せよ。</p>   |

年間授業計画表

|      |        |      |                  |
|------|--------|------|------------------|
| 履修学年 | 教科     | 授業形態 | 週時間数             |
| 中学3年 | 理科(生物) | 一斉   | 前期1時間<br>1月から2時間 |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 教科書<br>未来へひろがるサイエンス 3 (啓林館)  | 副読本<br>理科の自主学习3年<br>(新学社) |
| <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学とその意味するものを理解し正しく認識すること</li> <li>・科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと</li> <li>・疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと</li> <li>・調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと</li> <li>・効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること</li> <li>・実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること</li> <li>・生物環境と非生物環境に対して敏感になること</li> <li>・学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること</li> </ul> |                           |
| <p>注意事項 (学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 学習方法</p> <p>(1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。</p> <p>(2)復習を重視し、小单元ごとに問題演習を行う。</p> <p>(3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。</p> <p>2 家庭学習</p> <p>(1)学校からの課題を行う。</p> <p>(2)テストに向けた学習計画を立て実行する。(ユニットテスト、学習テスト)</p> <p>(3)夏休みには、課題等を行う。</p> <p>3 授業</p> <p>実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。</p> <p>状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。</p>                                |                           |

評価について

|               |    |                       |
|---------------|----|-----------------------|
| 観点            | 割合 | 授業時における項目             |
| 知識・技能         | 40 | テストや課題、実験の技能          |
| 思考・判断・表現      | 30 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 30 | 授業態度、提出物              |

|    |   |   |
|----|---|---|
|    | 単元  | 目標  |
| 前期 | <p>ユニット2</p> <p>生命の連続性</p> <p>1章 生物のふえ方と成長</p>                                  | <p>1章 生物の成長とふえ方と成長</p> <p>生殖の観察などを通して、生物のふえ方には、無性生殖と有性生殖の2つがあることを見だし、その違いを理解する。また、種子から根がのびる様子の観察や、細胞分裂の観察を通して、生物の成長や生殖を細胞の分裂と関連づけて捉えるとともに、有性生殖における減数分裂について理解する。</p>     |
|    | <p>2章 遺伝の規則性と遺伝子</p>  | <p>2章 遺伝の規則性と遺伝子</p> <p>生物がふえていくとき、染色体にある遺伝子介して親から子へ形質が伝わることを、そしてその伝わり方に規則性があることを理解する。</p> <p>MYP課題:遺伝子改変はどこまで認められるのかについての新聞作成</p>                                      |
|    | ユニットまとめテスト  |   |
| 後期 | <p>3章 生物の種類と多様性と進化</p>  | <p>3章 生物の種類と多様性と進化</p> <p>現存の生物や化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連づけて理解する。また、生物の間のつながりを時間的に見ることを通して進化の概念を身に付ける。</p>                         |
|    | <p>ユニット6 (1月～)</p> <p>1章 自然界のつり合い</p> <p>2章 さまざまな物質の利用と人間</p> <p>3章 科学技術と人間</p> | <p>主に 5章 持続可能な社会をめざして</p> <p>科学技術の発展と人間生活との関わり方について多面的、総合的に捉えさせ、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について科学的に考察させ、持続可能な社会をつくることの重要性を認識させる。</p> <p>MYP:宇宙船地球号が今後も末永く運航を続けるには私たちに何ができる？</p> |
|    | <p>4章 人間と環境</p> <p>5章 持続可能な社会をめざして</p>  |   |

年間授業計画表

|    | 単元                                 | 目標   |
|----|------------------------------------|--|
| 前期 | 宇宙を観る(ユニット3)<br>1章 宇宙の天体           | 1章 宇宙の天体<br>太陽の観察を行い、その観察記録や資料から、太陽の形や大きさ、表面のようすなどの特徴を見いだして理解し、観測資料などから、惑星と恒星の特徴や太陽系の構造を理解するとともに、太陽の表面を観察したり記録したりする技能を身に付ける。                                 |
|    | 2章 太陽と恒星の働き<br>ユニットまとめテスト①(7月)     | 2章 太陽と恒星の働き<br>太陽や星座の日周運動の観察を行い、天体の日周運動が地球の自転による相対運動であることを理解するとともに、季節ごとの星座の位置の変化や太陽の南中高度の変化を調べ、それらの観察記録を、地球が公転していることや地軸が傾いていることと関連づけて理解し、天体の動きを観察する技能を身に付ける。 |
| 後期 | 3章 月と金星の動きと見え方<br>ユニットまとめテスト②(11月) | 3章 月と金星の動きと見え方<br>月や金星の動きや見え方の観察を行い、月や金星の観察記録などから、見え方を月や金星の公転と関連づけて理解するとともに、月や金星の動きや形を観察したり記録したりする技能を身に付ける。<br><br>MYP:地球以外に住む場所はあるのか？                       |
|    |                                    |  |

| 履修学年 | 教科     | 授業形態 | 週時間数         |
|------|--------|------|--------------|
| 中学3年 | 理科(地学) | 一斉   | 1時間<br>12月まで |

|  |                           |
|--|---------------------------|
| 教科書<br>未来へひろがるサイエンス 3 (啓林館)  | 副読本<br>理科の自主学習3年<br>(新学社) |
| <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学とその意味するものを理解し正しく認識すること</li> <li>科学を利益と限界を伴った人間の試みとみなすこと</li> <li>疑問を抱き、問題を解決し、説明を構築し、議論を判断する、分析的で探究的かつ柔軟な思考を養うこと</li> <li>調査を計画・実施し、証拠を評価し、結論に達するスキルを養うこと</li> <li>効果的に協働しコミュニケーションをとる必要性を意識すること</li> <li>実世界における多様な文脈で言語スキルと知識を活用すること</li> <li>生物環境と非生物環境に対して敏感になること</li> <li>学習経験を振り返り、確かな情報に基づく選択をすること</li> </ul> |                           |
| <p>注意事項 (学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>1 学習方法</p> <p>(1)授業での学習と実験観察に意欲的に取り組む。</p> <p>(2)復習を重視し、小単位ごとに問題演習を行う。</p> <p>(3)実験の授業では、安全面を重視し、基本的な操作方法を身につける。</p> <p>2 家庭学習</p> <p>(1)学校からの課題を行う。</p> <p>(2)テストに向けた学習計画を立て実行する。</p> <p>(3)夏休みには、課題等を行う。</p> <p>3 授業</p> <p>実験室の状況で、単元の順番を変更することがある。</p> <p>状況に応じて、シラバスの内容を変更して授業を実施することがある。</p>                                       |                           |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目             |
|---------------|----|-----------------------|
| 知識・技能         | 40 | テストや課題、実験の技能          |
| 思考・判断・表現      | 30 | テスト、授業プリントやレポートなどの提出物 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 30 | 授業態度、提出物              |

年間授業計画表

|               | 単元  | 目標   |
|---------------|---|--|
| 前期            | ユニット1【想いは音楽にのせて】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の背景となった社会情勢や時代背景を学ぶ。</li> <li>・作曲者について学ぶ。</li> <li>・音楽が社会に与える影響(役割)を考察する。</li> <li>・交響詩について学ぶ。</li> </ul>                    |
|               | 歌唱  |  |
|               | 鑑賞  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音色・速度・強弱・旋律を知覚し、音楽の良さや美しさを味わって聴く。</li> </ul>   |
|               | ユニット1【想いは音楽にのせて】  | 同上   |
| 歌唱            |   |  |
| 後期            | ユニット1【想いは音楽にのせて】  | 同上   |
|               | 鑑賞  |  |
|               | 【みんなのうた】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が『美しい』と感じた音楽について調べ、音楽を鑑賞する視点を広げる。</li> <li>・楽曲制作背景・作者について解析する。</li> <li>・曲想・歌詞等の楽曲自体について分析し、自分が影響を受けた表現を特定し、発表する。</li> </ul> |
|               | 楽曲解析  |  |
| 発表            |   |  |
| 学習テスト         |   |  |
| ユニット2【心を合わせて】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・フレーズの特徴を生かした表現を工夫する。</li> <li>・音高に応じた美しい音色を奏でるための奏法を身に付ける。</li> <li>・表現に必要な技術を身に付ける。</li> <li>・合奏、合唱を通して、他者の表現の良さや違いを理解する。</li> <li>・練習・演奏を通し、音楽的コミュニケーションを図る。</li> <li>・表現する楽しさを感じ、他者の表現を受け入れる。</li> </ul> |  |
| アルトリコーダー      |   |  |
| 合唱            |   |  |
| パフォーマンス       |   |  |

| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
|------|----|------|------|
| 中学3年 | 音楽 | 一斉   | 1時間  |

|  |
|--|
| <p>教科書<br/>中学生の音楽 2・3年下 (教育芸術社)<br/>中学生の器楽 (教育芸術社)</p> <p>副教材<br/>アルトリコーダー<br/>タブレット</p>   |
| <p>目標・ねらい<br/>・音を使って、自分を表現する喜びを味わい、豊かな人間性を養う。<br/>・演奏や鑑賞を通して、他と協力して一つのものを作り上げる喜びを体験する。</p>   |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進度により課題の出る場合がある。</li> <li>・各種コンクール等への自主参加は自由。</li> </ul> <p>・ユニットに関わらず、演奏活動は随時行う。</p> |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目            |
|---------------|----|----------------------|
| 知識・技能         | 40 | パフォーマンス・小テスト・学習テスト   |
| 思考・判断・表現      | 40 | パフォーマンス・平常点・鑑賞・学習テスト |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 課題への取り組み・小テスト・平常点    |

年間授業計画表

|      |    |      |      |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 美術 | 一斉   | 1時間  |

|   |           |
|---|-----------|
| 教科書<br>美術2・3(光村図書)  | 副読本<br>なし |
| <p>目標・ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に美術の活動に取り組むなかで、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と能力を高める。</li> <li>対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する力や、自分の表現を創意工夫し、創造的に表現する力を伸ばす。</li> <li>自然の造形や芸術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、芸術文化に対する関心を高め、良さと美しさを味わう鑑賞の能力を育てる。</li> <li>創造的な思考力を高め、多様性を受け入れるとともに、自己及び他者理解を深め、表現と社会とのつながりを見出す。</li> </ul> |           |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業時には、制服が汚れないよう十分注意し、タブリエや、エプロン、スモックなどを着用する。</li> <li>課題によっては、怪我につながる危険性を伴う為、十分に注意して行う。</li> <li>筆記用具、教科書、絵の具バック、タブレットを毎時持参する。</li> <li>各種コンクールへの参加は自由。</li> <li>授業進度によって、課題の変更がある。</li> </ul>   |           |
| <p>長期休業課題</p> <p>調査レポート、鑑賞シート、自作の振り返り、作品制作、資料・材料集めなどのなかから、学習内容に合わせて休み前の授業内にて指示。</p>   |           |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目           |
|---------------|----|---------------------|
| 知識・技能         | 40 | 提出物(記述・作品)          |
| 思考・判断・表現      | 40 | 提出物(記述・作品)・鑑賞文      |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 20 | 提出物(記述・作品)・活動への取り組み |

|    | 単元   | 目標  |
|----|--|---|
| 前期 | オリエンテーション・鑑賞<br>「画家の自画像」                                     | ・美術の歴史や時代背景と、芸術形式の関係を理解する。<br>・色の組み合わせ、筆跡など絵画を構成する要素から、画家の心情を読み解く。  |
|    | ユニット1「心の窓・明日への願い」<br>・鑑賞<br>窓のある絵画                           | <アイデンティティ>A i ii<br>・作者の心情や意図、創造的な表現の工夫を感じ取り、自分の見方や考え方を深める。<br>・形や色彩、構図や描き方に着目し、絵画鑑賞の力を養う<br>・芸術形式や技法を学び、自作の構想に活かす。   |
|    | 絵画・水彩<br>・構成画  | <アイデンティティ>B i ii C i D i ii<br>・用具や画材の特性を活かし、内面を表すための創造的な工夫や表現を追求する。<br>・絵画表現に見られる様々な表現や技法を学び、実践する。<br>・主題を伝えるための、ふさわしい色・形・構図を模索し、構想する力、描写力を高める。<br>・自らの内面世界と向き合い、自己理解と他者理解を深める |
| 後期 | 木工・デザイン<br>ユニット2「世界をすくう? MYスプーン」<br>・デッサン<br>・木のスプーン<br>・用の美 | <美的感性>B i ii C i<br>・素材特性を理解し、自然物の美しさを味わいながら、用具を安全に扱い具現化する。<br>・生活の道具として、暮らしに寄り添った形や手触りについて模索し、機能性と美しさを兼ね備えたデザインの構想を練る。<br>・限られた資源に対する意識やものを大切にすることを養う。                         |
|    | 「企画展をひらこう！」<br>・パンフレット作成<br>・作品解説文作成                         | ・展示のテーマや構成を考え、企画としてまとめる力を養う<br>・作品の意図や見どころを言語化し、他者に伝える力を育てる<br>・パンフレットや解説文の制作を通して、視覚的・言語的に情報を整理し表現する力を高める   |

|      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 履修学年 | 教科   | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 保健体育 | 一斉   | 3時間  |

|   |           |
|---|-----------|
| 教科書<br>最新中学保健体育(大修館)  | 副読本<br>なし |
| <p>目標・ねらい (IBの目標)</p> <p>・保健体育の概念を探るために探求心を駆使する</p> <p>・多様な状況に効果的に関わる<br/>→場面や状況の変化にどう対応するべきか？</p> <p>・運動の価値を理解する<br/>→何のために運動するのか？</p> <p>・健康的なライフスタイルを達成し、維持する<br/>→健康的なライフスタイルとはどのようなものか？</p> <p>・効果的に連携し、コミュニケーションを図る<br/>→どのようなコミュニケーションをとるか？</p> <p>・肯定的な人間関係を築き、社会的な責任感を実際に示す<br/>→前向きに仲間と関わるために自分の果たす役割は何か？</p> <p>・自身の学習経験を振り返る<br/>→自分のできること、苦手なことは何か？どうすればできるようになるか？</p> |           |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <p>○体操服をきちんと着用すること。</p> <p>○怪我の防止のため、準備運動を徹底すること。</p> <p>○ワークシートを期限内に提出すること。</p> <p>見学の取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の体調を考えながら可能な範囲で参加をし、できるだけ見学はしないこと。</li> <li>・見学届は事前に提出すること。</li> </ul>  |           |

評価について

| 観点            | 割合 | 授業時における項目        |
|---------------|----|------------------|
| 知識・技能         | 50 | ペーパーテスト・実技テスト    |
| 思考・判断・表現      | 25 | 授業内での取り組み、ワークシート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 25 | 授業内での状況判断、ワークシート |

年間授業計画表

|    | 単元   | 目標   |
|----|--|--|
| 前期 | 体育祭関係<br>ラジオ体操第2<br>競技の説明・練習<br>学年演技の練習<br><br>【ユニット1】<br>バレーボール | ・集団の中での役割を自覚し、行動できるようになる。<br><br>・攻撃につながるプレーを探求する。 |
|    | 【ユニット2】<br>ハードル  | ・短距離とハードル走のタイムを縮める。                                |
| 後期 | 【ユニット3】<br>ハンドボール  | ・空き(スペース・人)を作るための工夫や変化を探求する。                       |
|    | 【ユニット4】<br>サッカー(フットサル)   | ・ボール保持と空きスペースを作るための工夫や変化を見つける。                     |
|    | 【ユニット5】<br>ダンス   | ・パートに分かれて創作を行い、1つの作品に仕上げる。                         |
|    | 【ユニット6】<br>保健  | ・中学生の心の発達と健康を理解する。                                 |

|      |             |      |       |
|------|-------------|------|-------|
| 履修学年 | 教科          | 授業形態 | 週時間数  |
| 中学3年 | 技術・家庭(家庭分野) | 一斉   | 1～2時間 |

|   |           |
|---|-----------|
| 教科書<br>新しい技術・家庭 家庭分野<br>自立と共生を目指して(東京書籍)  | 副読本<br>なし |
| 目標・ねらい<br>生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し、創造する能力と実践的な態度を身につける。  |           |
| 注意事項(学習方法・長期休業の課題など)<br>1 プリント、課題などは必ず提出すること。<br>2 調理実習では、班で作業することも考え、なるべく欠席のないよう体調管理に注意すること。<br>3 長期休業中には、家庭での実践を含めたレポート等の課題がある。 |           |

|               |    |                  |
|---------------|----|------------------|
| 観点            | 割合 | 授業時における項目        |
| 知識・技能         | 40 | 学習テスト            |
| 思考・判断・表現      | 40 | ワークシート、課題レポートの内容 |
| 主体的に学習に取り組む姿勢 | 20 | 授業、課題への取り組み状況    |

年間授業計画表

|    |  |  |
|----|--|--|
|    | 単元   | 目標   |
| 前期 | 子どもの発達(Unit1)<br>家族・家庭の機能<br>中学生としての自立<br>家庭生活と地域との関わり | 家族、家庭の基本的な機能について理解する。<br>自分がなう家族の役割について考え、自立に向けて中学生の自分にできることを考え、工夫できる。<br>地域の人々とともに協力・協働することの大切さを理解できる。                |
|    | 幼児の心、体の発達<br>幼児の生活習慣<br>学習テスト                          | 自身の幼児期を振り返り、周囲の人との関わり方の大切さを知る。<br>幼児の心と体の発達について理解できる。<br>幼児の1日の生活の特徴について理解できる。<br>幼児の栄養の特徴を理解し、幼児の健康や成長に配慮したおやつ献立を考える。 |
|    | 子どもとの関わり方(Unit2)<br>幼児との関わり方の工夫<br>子どもにとっての家族          | 幼児にとっての遊びの意義について理解できる。<br>幼児の視点から家族や周囲の関わり方について考える。  |
|    | これからの家族と地域   | 高齢者の体の特徴について理解し、関わり方を工夫できる。<br>中学生として地域の人々との関わり方を考え、協働する方法を工夫する。   |
| 後期 | 日常食の調理<br>学習テスト  | 安全と衛生に留意し、食品や調理器具の適切な扱いと管理ができる。  |

|      |             |      |       |
|------|-------------|------|-------|
| 履修学年 | 科目          | 授業形態 | 週時間数  |
| 中学3年 | 技術・家庭(技術分野) | 一斉   | 1～2時間 |

|  |           |
|--|-----------|
| 教科書<br>新しい技術・家庭 技術分野(東京書籍)   | 副教材<br>なし |
| <p>目標・ねらい<br/>生物育成・情報の技術の学習を通して、栽培や計測・制御などの基礎的な知識・技能を習得するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力、適切かつ誠実に生物育成・情報の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>  |           |
| <p>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は、授業時に終わらせることが前提であるが、終わらない場合は放課後補習という形態をとることがある。</li> <li>・グループワークや実習を多く取り入れた授業形態となるため、積極的な活動が求められる。</li> <li>・授業を欠席した場合は、登校日に授業内容の確認に来ること。</li> <li>・提出物は期限厳守。未提出や提出遅れは平常点の大幅な減点対象となるため注意すること。</li> </ul> |           |

評価について

| 項目            | 割合(%) | 項目内容             |
|---------------|-------|------------------|
| 知識・技能         | 40    | ワークシート、製作品       |
| 思考・判断・表現      | 40    | ワークシート、課題レポートの内容 |
| 主体的に学習に取り組む姿勢 | 20    | 授業、課題への取り組み状況    |

年間授業計画表

|    | 単元                                | 目標   |
|----|-----------------------------------|--|
| 前期 | (後期期間内に集中実施)                      |  |
|    |                                   |  |
| 後期 | 生物育成の技術の原則・法則と仕組み                 | 育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解し、技術に込められた問題解決の工夫について考える。 |
|    | 生物育成の技術による問題解決<br>「水耕栽培を利用した植物育成」 | 問題解決のための課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培の過程や結果の評価、改善および修正について考える。        |

|      |    |      |      |
|------|----|------|------|
| 履修学年 | 教科 | 授業形態 | 週時間数 |
| 中学3年 | 宗教 | 一斉   | 1時間  |

|   |           |
|---|-----------|
| 教科書<br>聖書 新共同訳続編つき (日本聖書協会)   | 副読本<br>なし |
| <b>目標・ねらい</b><br>①学園の建学の精神に触れ、キリスト教の基礎的な知識を身に付ける。<br>②キリスト教の歴史を理解する。<br>③聖書に触れ、神のメッセージを学ぶ。<br>④生徒一人ひとりが神に愛されていることを実感させる。  |           |
| <b>注意事項(学習方法・長期休業の課題など)</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>聖書のみことばと、現代社会の諸問題を関連付けながら、学ぶように導く。</li> <li>修養会などの宗教行事に関する事前の準備と、事後の振り返りを行う。</li> <li>修養会ノートの提出や、課題に対するレポートを定期的に課す。</li> <li>夏休みには課題を課す。</li> </ul> |           |

評価について

| 観点              | 割合 | 授業時における項目        |
|-----------------|----|------------------|
| 宗教への興味・関心       | 20 | 提出物・修養会ノート       |
| キリスト教についての知識・理解 | 60 | 学習テスト            |
| キリスト教的価値観を表現する力 | 20 | 課題・レポート(読書感想文など) |

年間授業計画表

|    | 単元  | 目標   |
|----|---|--|
| 前期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>イエスの宣教、イエスの生涯 たとえ話</li> <li>私とは？①</li> <li>修養会</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>聖書のたとえ話の意図を理解する。</li> <li>自分の価値観を考察しながら、自分自身を知る。</li> <li>修養会に向けた準備を進める。</li> <li>「奉仕の心を育てよう」をテーマに、指導司祭の経歴や著作などを通して、自己の内面と向き合う。</li> <li>聖母月に向けての雰囲気を作る。</li> </ul> |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「選択」</li> <li>聖パウロ</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>神の愛に信頼をおきながら、自由に「選択」していく大切さを知る。</li> <li>自らの選びの大切さを実感する。</li> <li>聖パウロの生涯から、人生の選択や回心とは何かを理解する。</li> </ul>   |
| 後期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>私とは？② 他者を通して自分を知る</li> <li>コルベ神父の生涯</li> <li>マザー・テレサの生涯</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分では見つけられない自分自身を、他者を通して知り、新しい自分を見つけ、自己理解を深める。</li> <li>第二次世界大戦におけるナチスの歴史とコルベ神父の生涯を理解する</li> <li>ボランティアの精神を見につける</li> <li>社会の中の弱い立場の人々を、大切にすることをまなぶ。</li> </ul>      |
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>私の力、私の役割</li> </ul> 中学校のふりかえり<br>イエスのメッセージ<br>高校に向けて               | <ul style="list-style-type: none"> <li>教皇フランシスコの若者たちへの言葉から、自分の人生の歩みを考え、同時に社会や世界の中で、自分の役割について考える。</li> </ul>  |



WWW.ST-JOSEPH.AC.JP